

釜石祥雲支援学校

研究テーマ

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った
授業改善 ～学びを生活につなげる授業づくり～
(2年研究2年次)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

本校では、学校教育目標である「心豊かに生き生きと生活できる人に育てる」ために、児童生徒がどのような力を発揮しているのかを具体的に見取り、授業実践を積み重ねていくことで質の高い学びをめざしている。そこで新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った働きかけや手立てを探り、授業改善することで質の高い学びにつながると考えた。また、前研究の課題を受けて学習チェック(評価)を授業改善に役立てること、学部間や教科横断的など学びのつながりを再確認することで、学びを生活につなげることができる「質の高い学び」を実現したいと考える。

(2) 研究の目的

前研究の成果や課題、新学習指導要領の内容を反映し、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の捉えを明確にして授業改善や支援方法を検討する。

(3) 研究の内容及び方法(2年次)

- ① 新学習指導要領及び「主体的・対話的で深い学び」についての研修(全校研修会、高教研講演会)
- ② 新学習指導要領に対応した授業づくりにおける観点の共有化(学習指導案様式作成、授業のチェックシートの活用)
- ③ 学部間の実態共有(授業見学期間)
- ④ グループ内授業検討会、全校授業検討会の実施(2回)
- ⑤ 各学部(研究グループ)における研究主題に関する取り組み

(4) 学部別研究

【小学部低学団】

児童の人や物とのかかわりに焦点をあてた授業づくり ～遊びの指導をとおして～

【小学部高学団】

自分の思いを表現するための授業づくり
～教科間でのつながりを意識した

授業実践をとおして～

【中学部】

「わかる」「できた!やってみよう!」学んだことを生かせる授業づくり

～生徒の実態に合わせた「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践をとおして～

【高等部(一般就労)】

作業学習における「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた表現力を高める支援方法

【高等部(福祉的就労)】

作業学習における「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた個々の意思表示を広げる支援方法

【重度重複障がい(自立活動)】

重度重複障がいをもつ児童生徒の

「主体的・対話的で深い学び」とは

～個から集団への学びをつなげる授業～

2 講演会

演題:「新学習指導要領における特別支援教育について～『主体的・対話的で深い学び』の捉えと学びの実現～」

講師:東北福祉大学

教育学部教育学科初等教育専攻

教授 大西 孝志 氏

期日:令和2年7月28日(火)

場所:釜石高等学校 石楠花ホール

参加者:49名(新型コロナウイルス感染症対策のため対象を原則校内職員に限定して実施)

3 研修会

オンライン研修会の実施(5回:12月現在)

4 刊行物

研究紀要「五葉の実践」